Color Science Association of Japan

追悼文

生源寺（しょうげんじ）　治雄（はるお）　先生

神作　博　名誉会員（中京大学名誉教授）

生源寺治雄先生は当学会副会長・東海支部長（第2代目）を務められ，以降地元東海支部の諸活動を長い間見守り続けて下さり，後進の私ども会員を高い立場からご訓導下さいましたが，誠に残念なことに本年の7月10日93年の生涯を全うされました．

長い間の先生の当学会へのご尽力・ご指導に対し，感謝申し上げますと共に，謹んでご冥福をお祈り申し上げます．

先生は，昭和15年旧制第一高等学校理科甲類をご卒業の後，東京帝国大学（当時）へお進みになられ，昭和18年9月理学部物理学科をご卒業になられました．以降，名古屋帝国大学（当時）理学部助手，講師を経て，昭和28年名古屋市工業研究所に入所，ご研究に精励なされた後，昭和47年同研究所所長の任に就かれました．

この間，名古屋大学にて工学博士の学位を取得（昭和37年2月），また，トーマス・ビッカースタッフ著の「染色の物理化学」という本を共訳され丸善より出版されました．

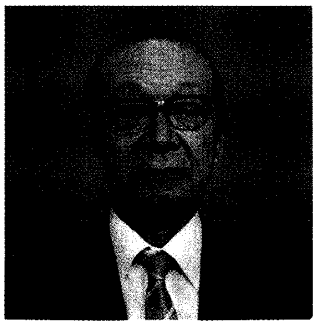
ところで当学会当支部の設立は1972年（昭和47年）5月．それまで東海地区の色彩学者・研究者は「東海色彩懇話会」を設立し，生源寺先生は，その世話人を勤めておられました．

当支部の発足に伴い，東海色彩懇話会のメンバーは大同団結し，「活動休止」を宣じ，大多数の方々が当支部の所属学会員となられた次第です．

このように，支部設立後，歴史も浅い状態でしたため，組織，運営等々，諸基盤整備の未熟なものがいろいろ残存しておりました．

物理学者・工学研究者でもあられた先生は，持ち前の論理的思考と，真面目なお人柄を十二分に発揮され，“きちん！”，“きちん！”と物事を処し・進めるという仕事の仕方を私共，支部執行部の面々にご指導くださいました．

もちろん，この支部活動の状況の反映は当学会本部の考え方や運営の仕方にも及びました．当時，本部事務局機能が十分発揮されない状態もあり，先生は，副会長としても会長を補佐し，学会全体の“あり方・進め方”にも腐心されておられました．



先生は初代支部長の須賀太郎先生（豊田工業高等専門学校校長）を助け，1973年（昭和48年）名古屋で開催された当学会第4回全国大会（当支部としては初めての開催）を成功させ，この全国大会において，ご自身特別講演「カラーマッチングについて」の講演をなさっておられます．

支部長ご在任中に，当学会第8回全国大会を主催，全国大会の付設の展示会も初めて計画，実行されました．

この全国大会では，わが国のカラーテレビ生みの親であられる駒井又二氏（当時名古屋大学工学部長，後に豊田工業大学学長）をお招きしての特別講演を実行されたり，照明学会東海支部との共同で，照明デザイナーの石井幹子氏の講演会，電気学会東海支部との共同で，田村保氏（名古屋大学）の“視覚の物理計測”の講演会を実施されるなど，多彩な活動をなさいました．

地元伝統の「有松絞り」の見学会，「七宝焼」の見学会，ならびにＡＩＣの状況を聴く会，また，当時世に出始めた“パルック”に関する座談会の実施，カラーシミュレータに関する見学会や講演会など，東海支部の現在を創る幅広い，また確固たる基礎固めに貢献された先生です．いつも，地味に，控えめになさっておられ，穏やかなお人柄でありながら内に情熱を秘めておられる先生でした．

名古屋市工業研究所ご退職後は岐阜大学等で若手・後進の育成に励んでおられた由です．当学会ならびに当支部は現在，若さみなぎり，活発に活動しております．先生，静かにお見守り下さい．

（なお，ご経歴に関する情報は，名古屋大学大学院のご子息眞一教授ならびに名古屋市工業研究所に，特にお願いして入手させて頂きました．厚く御礼申し上げます．）

NII-Electronic Library Service